

はじめに

このたびは、(株)デジタル製< OSのリモート接続機能を可能にしたソフト> FIX-Remote-Proをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

< FIX-Remote-Pro >は、インテルーション社製のFIX (計装用アプリケーション)が収集しているデバイスのデータにEDA(FIX DMACSのデータアクセスキット)を使ってアクセスし、アラームを監視します。監視したタグの「アラームメッセージ通知」や「指示したファイル転送」をリモート接続で行うアプリケーションソフトです。

ご使用にあたっては、本書をよくお読みいただき、本機の正しい取り扱い方法と機能を十分にご理解いただきますようお願いいたします。

本書では、パソコンのOSを、Windows95³を基本として説明しています。

お断り

- (1) 本製品および本書の内容の、一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- (2) 本製品および本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
- (3) 本製品および本書の内容に関しては、万全を期して作成いたしましたが、万一誤りや記載もれなど、ご不審な点がありましたらご連絡ください。
- (4) 本製品を運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書に記載の商品名や製品は、それぞれの所有者の商標です。

もくじ

| | |
|-------------|---|
| はじめに | 1 |
| もくじ | 2 |
| 梱包内容 | 3 |
| 使用上の注意 | 4 |
| マニュアル表記上の注意 | 5 |

第1章 FIX-Remote-Proの基本事項

| | | |
|-------|-----------------------------|-------|
| 1.1 | FIX-Remote Proの特徴 | 1 - 1 |
| 1.2 | システム構築環境 | 1 - 1 |
| 1.3 | システム構築手順 | 1 - 2 |
| 1.3.1 | アラームタグ監視手順 | 1 - 2 |
| 1.3.2 | ファイル転送手順 | 1 - 3 |
| 1.4 | FIX-Remote Proの追加と削除 | 1 - 4 |
| 1.5 | 基本操作方法 | 1 - 6 |
| 1.6 | 起動から終了まで | 1 - 8 |

第2章 FIX-Remote Pro操作手順

| | | |
|-----|----------------------------|-------|
| 2.1 | アラームタグを監視するための操作方法 | 2 - 1 |
| 2.2 | ファイルを転送するための操作方法 | 2 - 3 |
| 2.3 | RmtproEx.exeを使用する方法 | 2 - 5 |

第3章 FIX-Remote-Pro画面説明

| | | |
|-------|-------------------|--------|
| 3.1 | リモート監視 | 3 - 1 |
| 3.1.1 | リモート画面 | 3 - 1 |
| 3.1.2 | 送信アラーム設定画面 | 3 - 3 |
| 3.1.3 | ファイル収集設定画面 | 3 - 7 |
| 3.1.4 | ダイアル画面 | 3 - 9 |
| 3.2 | アラーム受信サービス | 3 - 10 |
| 3.2.1 | アラーム受信サービスのメニューバー | 3 - 10 |
| 3.3 | ダイアル通信について | 3 - 13 |
| 3.3.1 | 起動について | 3 - 13 |
| 3.3.2 | /Sで設定する状態変数について | 3 - 13 |
| 3.3.3 | 設定例 | 3 - 15 |

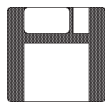
第4章 異常処理

| | | |
|-----|--------------------------------|-------|
| 4.1 | 異常処理 | 4 - 1 |
| 4.2 | トラブルシューティング | 4 - 1 |
| 4.3 | FIX-Remote-Pro 注意事項について | 4 - 2 |
| 4.4 | アフターサービス | 4 - 3 |

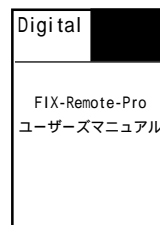
梱包内容

梱包箱には、以下のものが入っています。ご使用前に必ず確認してください。

FIX-Remote-Pro フロッピーディスク 1枚



ユーザーズマニュアル 1冊



ユーザー登録FAX用紙



(バージョンアップなどの様々なユーザーサポートのため、必要事項をご記入の上、FAXにて必ずご返送くださいますようお願いいたします)

品質や梱包には、万全を期しておりますが、万一破損や部品不足、その他お気付きの点がありましたら、直ちに販売店までご連絡くださいますようお願いいたします。

使用上の注意

ディスクの取り扱いについて

高温、多湿な場所、ほこり、磁界などの影響を受ける場所には置かないでください。

ディスクドライブのランプが点灯しているときは、ディスクを取り出さないでください。

パソコン本体の電源の ON/OFF は、ディスクを抜いてから行ってください。

本ソフトの使用について

< FIX >  FIXのマニュアル

FIX-Remote-Proの各タスクをFIXから起動する場合は、絶対パス指定で起動してください。

FIX-Remote-Proの起動時、もしくは【データ収集】を行うと、「DLLエラー」が発生する場合は、以下を追加して、パソコンを再起動してください。

```
SET PATH=C:¥FIX32;%PATH%
```

└─FIXをインストールしたパスを指定してください。




FIXに付属のソフトウェアキーは、プリンタインターフェイスにおいて双方向通信が発生すると、壊れます。双方向通信が発生するソフトウェアを起動する場合は、一度プリンタインターフェイスからソフトウェアキーを取り外してください。

Remote Pro 注意事項について

アラーム通知機能でFIXの保留アラームをアラーム監視条件にする場合は、別途アラーム監視応答を行う処理が必要です。FIXの保留アラームは確認応答がおこなわれないと状態が変化しない為、新たなアラーム発生(例:HI HIHI,HI 正常 HI など)を検出できません。必ず、FIXでアラーム監視応答の処理を行ってください。

マニュアル表記上の注意

本書で使用している用語や記号等の意味は以下のとおりです。

| | |
|---|--|
|  | 操作を行う上で特に注意する点を説明します。 |
|  | 操作を行う上での参考点を説明します。 |
|  | 詳しく説明されている参照先を示します。 |
| FIX-Remote-Pro | OSのリモート接続機能を可能にしたソフト「FIX-Remote-Pro」を指します。 |
| FIX | インテリューション社製の計装ソフトウェア「FIX for Windows95」または「FIX for WindowsNT」です。「FIX-Remote-Pro」を起動する上で必要です。 |
| *1 | 脚注で説明している語句についています。 |

MEMO

第1章 FIX-Remoto-Pro 基本事項

この章では、FIX-Remoto-Pro のインストール方法や起動の仕方について説明します。
また、使用するにあたって基本操作方を説明します。FIX-Remoto-Pro を起動する場合は、FIX for Windows95、またはFIX for WindowsNT4.0 以上が必要となります。

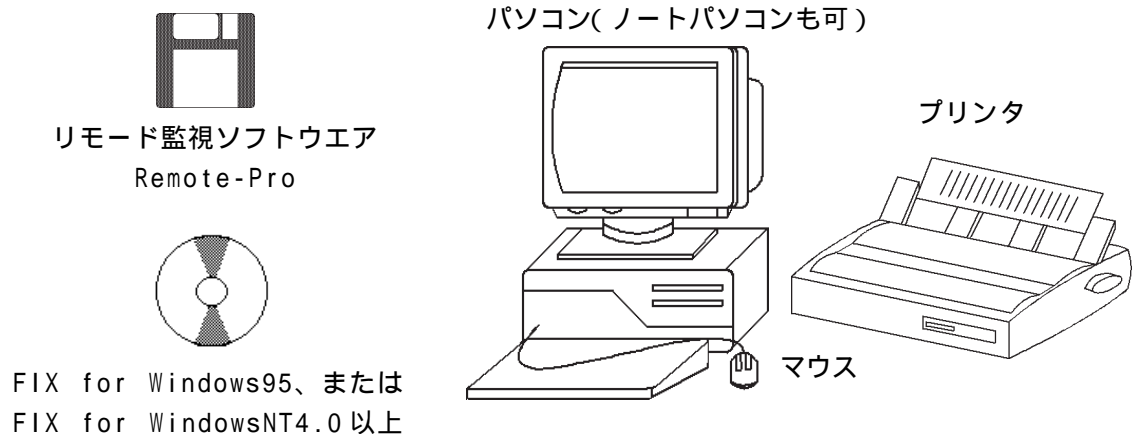
1.1 FIX-Remoto-Pro の特徴

FIX のアラームの監視を行い、アラームが発生した場合にリモート接続で通知することができます。

ポケットベルにダイアルすることができます。

ファイル転送を指定した時刻に自動的に行うことができます。

1.2 システム構築環境



使用可能な機種および環境

パソコン

Windows[®]95、またはWindows NT[™]4.0 が動作するパソコン

OS バージョン

Windows[®]95、またはWindows NT[™]4.0



Windows[®]95 をダイアル受信側で使用する場合はWindows[®]95 PLUS が
必要です。Windows NT[™] においては4.0 以上のバージョン対応です。

メモリ

32M バイト以上(Windows NT[™]4.0 場合は64MB 推奨)

ディスク

実行ファイルなどをインストールするための容量として、最小で20M バイトが必要です。

マウス (マウスは必ずご準備ください)

PS/2 マウス

プリンタ

OS に依存したプリンタドライバが付属されているもの。

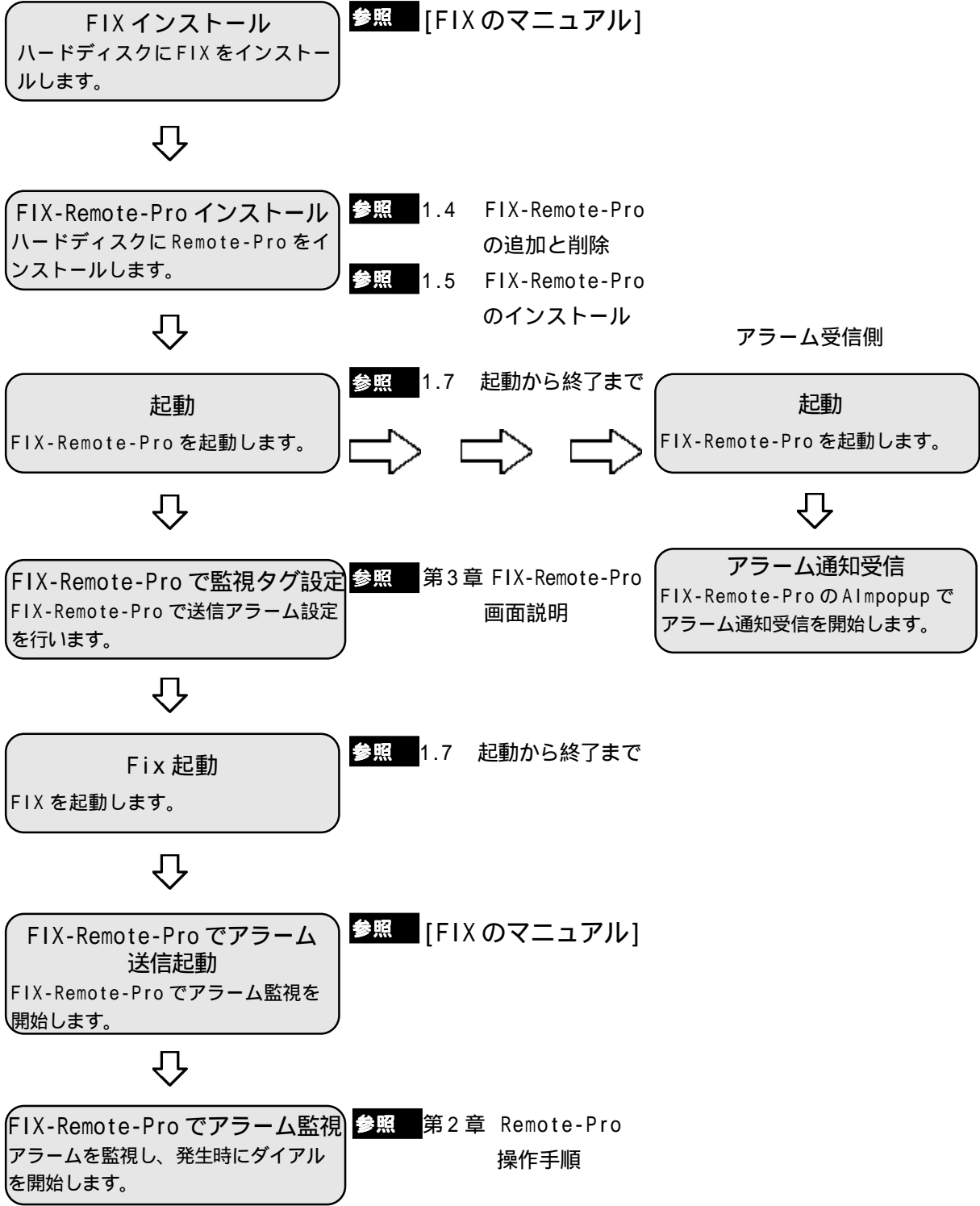
ソフト設定

FIX があらかじめインストールされている環境

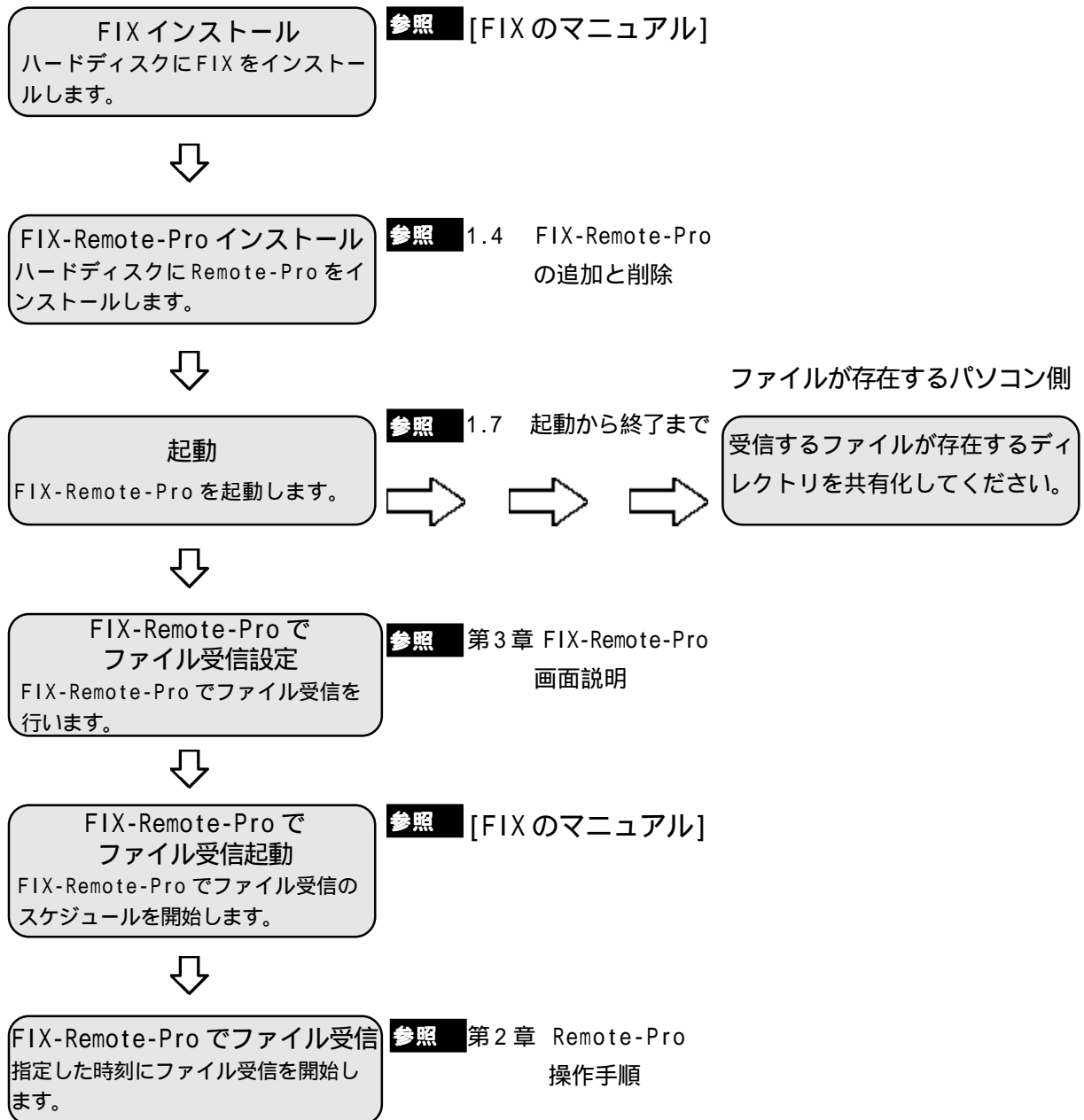
1.3 システム構築手順

FIX-Remote-Pro を起動するまでの手順を説明します。

1.3.1 アラームタグ監視手順



1.3.2 ファイル転送手順



1.4 FIX-Remote-Pro の追加と削除

Windows[®]95/NT[™] がパソコンに組み込まれていることを前提で説明します。

Windows[®]95、もしくはWindows NT[™] に FIX-Remote-Pro を追加 / 削除する場合

FIX-Remote-PRO フロッピーディスク 1枚

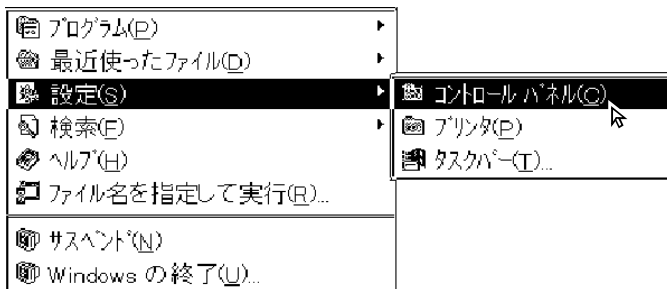
追加

OPERATION

NOTE

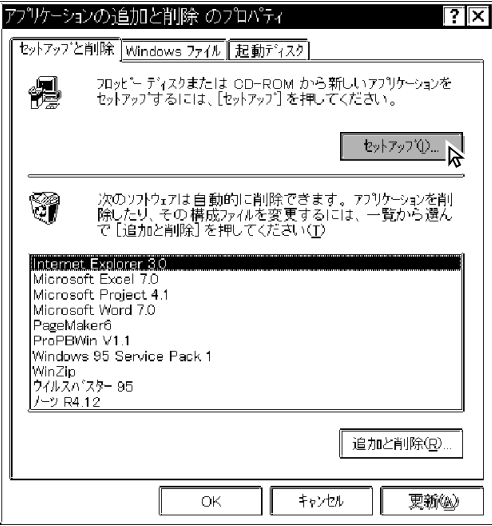
FIX-Remote-PRO の Setup Disk1 をフロッピーディスクドライブに入れます。

[スタート] ボタンをクリックし、[設定(S)] をクリックして [コントロールパネル(C)] をダブルクリックして実行します。

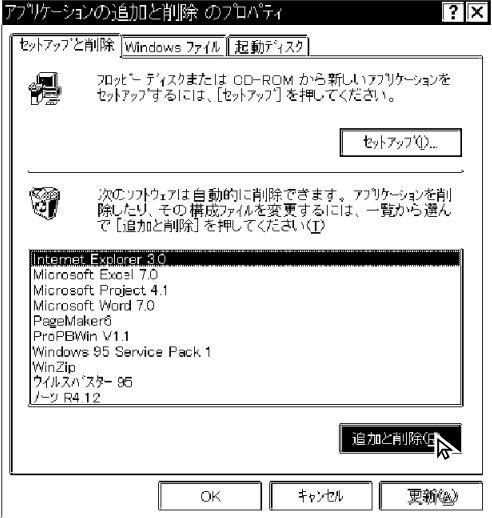


[アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。



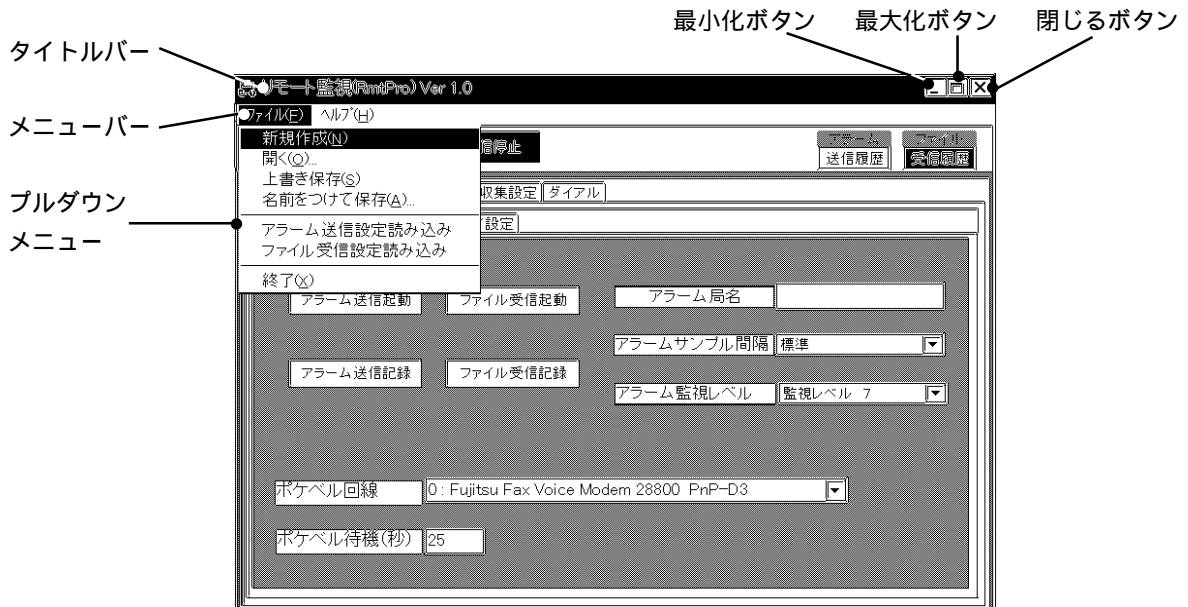
| OPERATION | NOTE |
|--|------|
| <p>インストールをする場合はセットアップを選択します。</p>  <p>セットアッププログラムの実行画面が開きます。これ以降は、画面の指示に従って作業を進めてください。</p> | |

削除

| OPERATION | NOTE |
|---|------|
| <p>削除方法の「 」以前は追加方法の ~ と同じです。</p> <p>削除する場合は削除を選択します。</p>  <p>アンインストールシールドの実行画面が開きます。これ以降は、画面の指示に従って作業を進めてください。</p> | |

1.5 基本操作方法

ウインドウの基本的な操作について説明します。



タイトルバー


Remote-Pro のファイル名やタイトルが表示されます。

メニューバー


Remote-Pro を操作するためのメニューが表示されています。これらをマウス、またはキーボードで選択すると、「プルダウンメニュー」が表示されます。

プルダウンメニュー


メニューラインからメニューを選択すると表示されます。各種のコマンドが、ここから選択することができます。

 **最小化ボタン**

ウインドウを画面に表示せず、タスクバー上だけにボタン表示します。タスクバー上のボタンをクリックすると元の表示に戻ります。

 **最大化ボタン**

ウインドウを画面全体に表示します。すでに最大化されている場合は、「元に戻るボタン」で元のサイズに戻ります。(FIX-Remote-PRO では使用できません。)

 **元に戻すボタン**

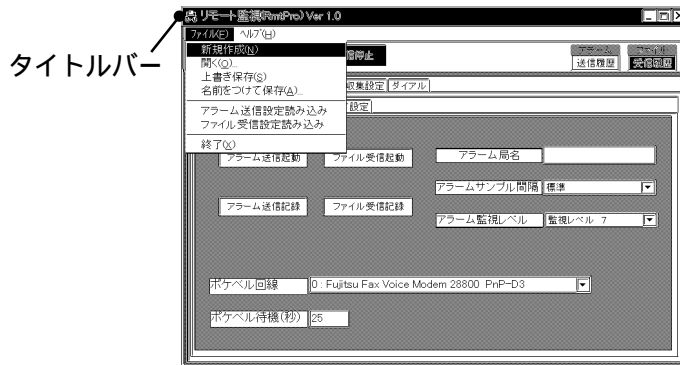
元のサイズに戻すボタンです。最小化 / 最大化したウインドウを元のウインドウのサイズで表示します。(FIX-Remote-PRO では使用できません。)

 **閉じるボタン**

ウインドウを閉じるボタンです。

ウィンドウを移動する

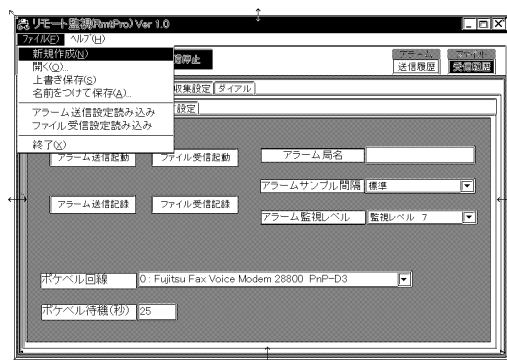
ウィンドウのタイトルバーをドラッグします。



ウィンドウのサイズを変更する

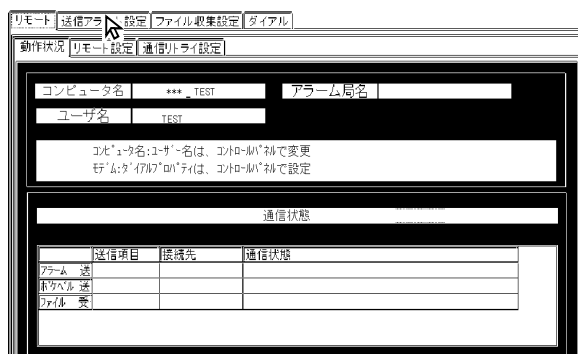
ウィンドウのサイズを変更するには以下の方法があります。
(FIX-Remote-PRO ではサイズ変更はできません。)

- ・ウィンドウの四隅、上下、左右の辺をドラッグします。



画面選択

ダイアログボックスの中に複数の設定画面がある場合に表示されるシートの上端のインデックスの形のつまみ(タブ)をクリックして選択してください。



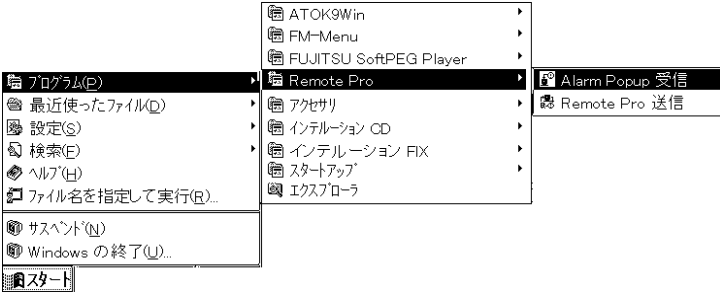
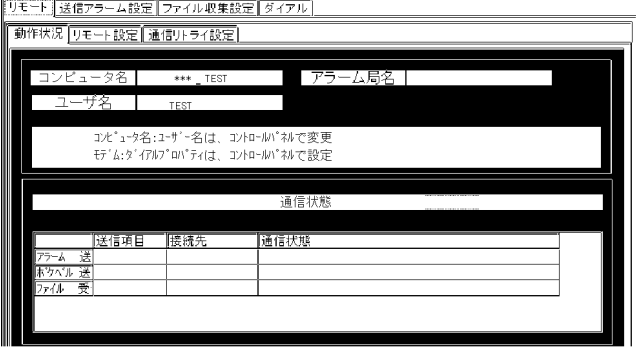
1.6 起動から終了まで

FIX-Remote-Pro の起動から終了までの操作の流れについて説明します。

起動の方法

パソコンの電源を ON し、Windows[®]95 を起動した状態であることを前提として説明しています。

リモート監視側(アラーム送信サービス側)


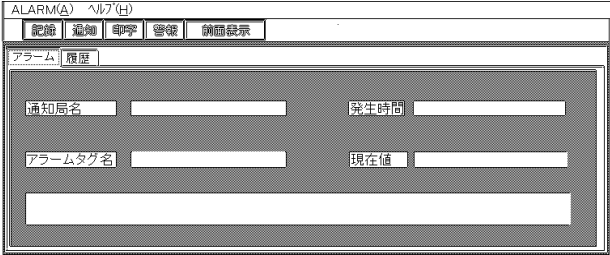
| OPERATION | NOTE |
|--|--|
| <p>[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム(P)] の [Remote-Pro] をクリックし、[Remote Pro 送信] をダブルクリックします。</p>  <p>以下のような Remote-Pro のメインメニューが表示されます。</p>  | <p>タスクバー(デスクトップ下に表示されているバー)には、起動したプログラムに対応するボタンが表示されません。</p> |



コマンドラインからの起動方法 - 起動パラメータはすべて小文字で指定します。
Rmtpro.exe/RmtproEx.exe(ランタイム版)がメインとなります。利用可能なパラメータは以下の通りです。

- /x 終了します。
- /ar a: アラーム監視を開始する状態で起動します。
r: ファイル受信を開始する状態で起動します。
- filename Remote Pro の設定ファイル名を指定します。

アラーム受信サービス側

| OPERATION | NOTE |
|--|---|
| <p>[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム(P)] の [Remote-Pro] をクリックし、[Alarm Popup 受信] をダブルクリックします。</p>  | <p>タスクバー(デスクトップ下に表示されているバー)には、起動したプログラムに対応するボタンが表示されます。</p> |
| <p>以下のような Remote-Pro のメインメニューが表示されます。</p>  | |



コマンドからの起動方法 - 参照 3.2.1 ALARM のオプション設定

Almpopup.exe がメインとなります。利用可能なパラメータは以下の通りです。

- /H アラーム受信履歴(アナログ)をファイルに記録します。
- /U アラーム受信に画面をPOPUP表示します。アラーム受信時にAlmpopupがアイコン状態の場合はウインドウ表示を行います。
- /P 受信アラームを印字します。印字するフォントとフォントサイズは[Alarm]メニューの[オプション]で確認と設定ができます。
- /B アラームの受信で警報を鳴らします。
- /T Almpopupのウインドウ表示をすべてのウインドウの最前面に表示します。
- /I 起動した場合にタスクバーにアイコン状態として表示されます。
- /M 終了確認のダイアログボックスが表示しないようにします。

パラメータの指定は個々に行うのではなく、"/"の後に続けて必要なパラメータを指定してください。

例 /HUPB

パラメータ「x」は小文字で指定します。

例 /x Almpopup.exe を終了します。

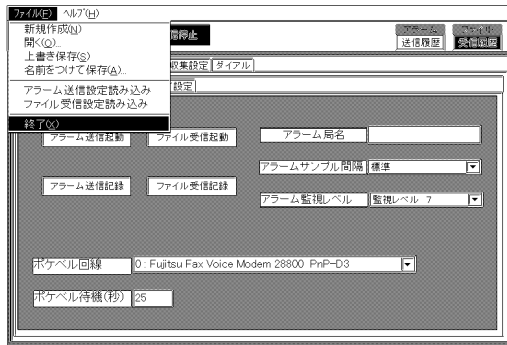
終了の方法

Rmtpro.exe/RmtproEx.exe(ランタイム版)の終了のさせ方を説明します。

リモート監視側

OPERATION

Rmtpro.exe/RmtproEx.exe(ランタイム版)のメインメニューから[終了]をクリックします。



NOTE

右上の をクリックしても [Rmtpro.exe/RmtproEx.exe(ランタイム版)] を閉じることができます。

また、DOS 上でパラメータの
" C:¥>Rmtpro /x " /
" C:¥>RmtproEx /x " でも終了することができます。



起動パラメータはすべて小文字で指定します。

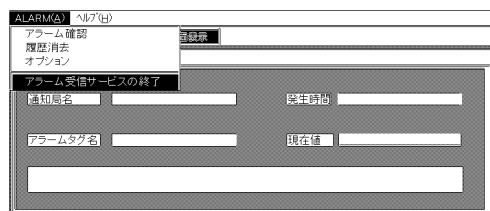
終了の方法

Almpopup.exe の終了のさせ方を説明します。

アラーム受信サービス側

OPERATION

Almpopup.exe のメインメニューから[アラーム受信サービスの終了]をクリックします。



NOTE

右上の をクリックしても [Almpopup.exe] を閉じることができます。

また、DOS 上でパラメータの
" C:¥>Almpopup /x " でも終了することができます。
この時、警報画面が表示されます。



起動パラメータはすべて小文字で指定します。

MEMO

第2章 FIX-Remote-Pro 操作手順

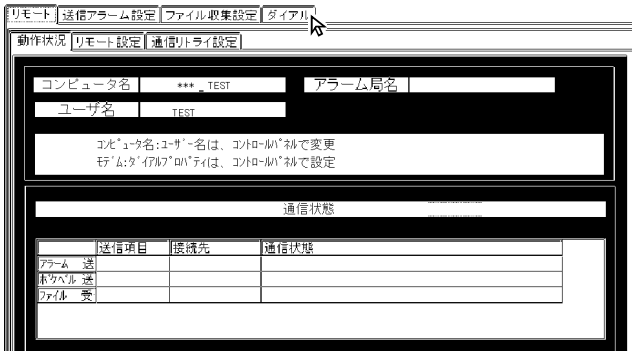
2.1 アラームタグを監視するための操作方法

FIX-Remote-Pro 設定および操作方法を説明します。

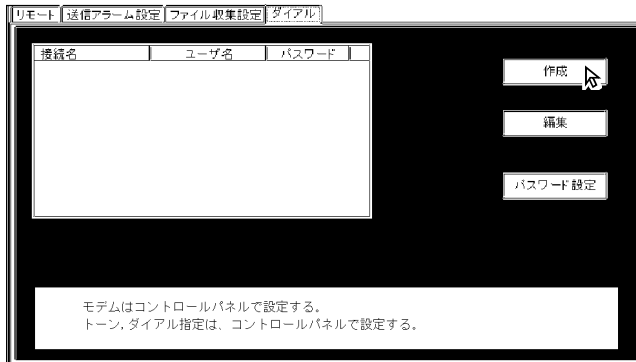
OPERATION

NOTE

[ダイアル] タブをクリックします。



作成 をクリックし、ダイヤルアップネットワークを接続します。



OPERATION

NOTE

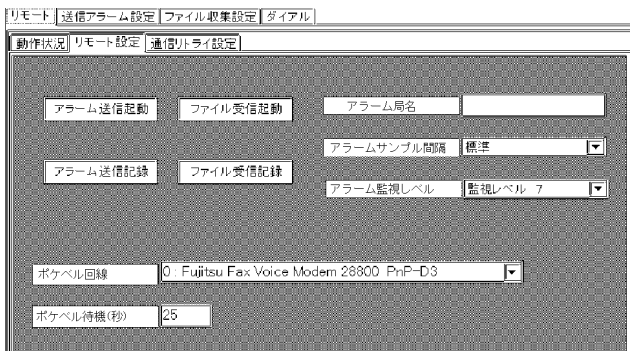
[送信アラーム設定]タブをクリックし[アラーム設定]画面を表示します。



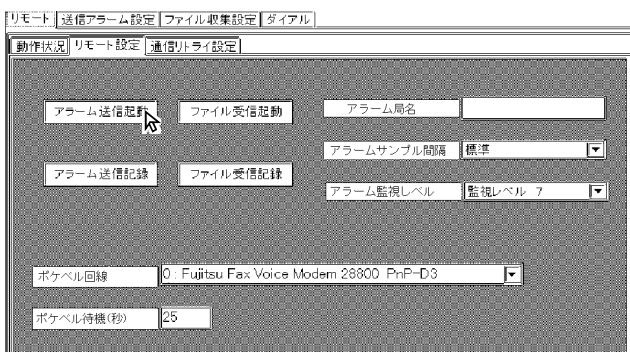
アラーム設定を行います。

参照 3.1.2 送信アラーム設定画面

初期画面 [リモート画面]内の [リモート設定]画面を開きます。



アラーム送信起動をクリックします。



この時点で、FIXのタグを監視し、アラームが発生した場合登録したダイアルへアラームを通知します。



この時点で、アラームを受信しても通知することができません。アラーム受信側はAlmpopup.exeを起動していますと通知することができます。また、C:\¥Rmtbox¥Rmtalarmというディレクトリを作成しておいてください。ディレクトリは、共有ディレクトリとしてフルアクセスできるようにしておいてください。

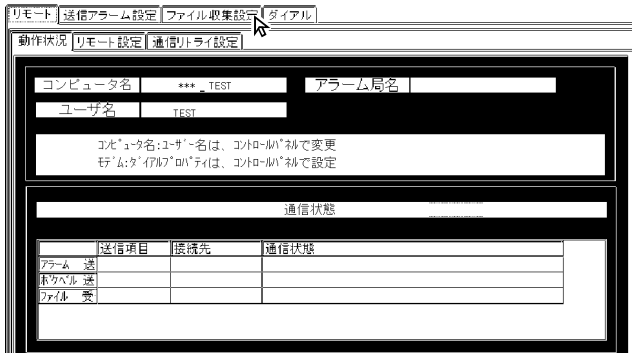
2.2 ファイルを転送するための操作方法

FIX-Remote-Pro 設定および操作方法を説明します。

OPERATION

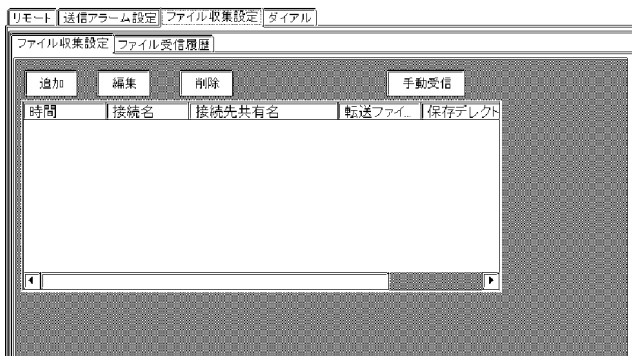
NOTE

[ファイル収集設定]タブをクリックします。

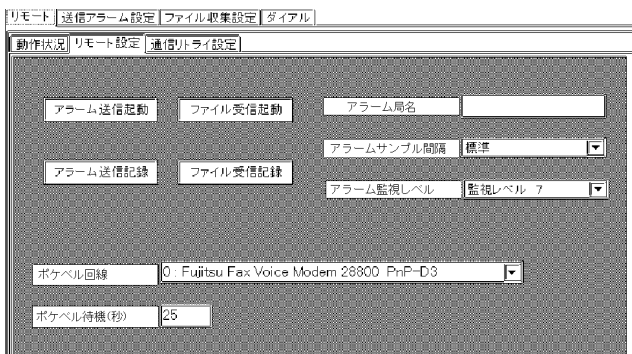


収集するファイルの設定を行います。

参照 3.1.3 ファイル収集設定画面



初期画面 [リモート画面]内の [リモート設定]画面を開きます。

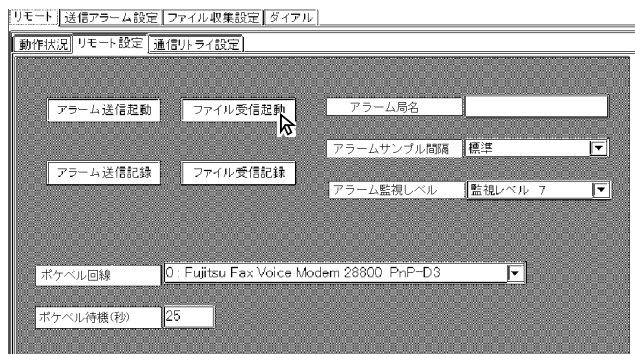


この時点で、ファイル受信のスケジュールを開始します。その後、指定した時間よりファイル受信を開始します。

OPERATION

NOTE

ファイル受信起動をクリックします。



2.3 RmtproEX.exe を使用する方法

RmtproEX.exe は、Rmtpro.exe のランタイム版です。

RmtproEX.exe は、Rmtpro.exe で行った設定で実行するのみのプログラムです。

RmtproEX.exe は、Rmtpro.exe と以下の点が違うだけでその他の仕様については全く同じです。

設定機能はありません。

履歴表示はファイルに保存されていたものを表示します。

手動のファイル受信でファイル名が変更可能です。

起動パラメータに履歴記録が設定可能です。



Rmtpro.exe と RmtproEX.exe は同時に実行できません。

RmtproEX.exe を実行すると以下の画面が表示されます。

| 通信状態 | | | |
|------|------|-----|------|
| | 送信項目 | 接続先 | 通信状態 |
| アラーム | 送 | | |
| ポケベル | 送 | | |
| ファイル | 受 | | |

MEMO

第3章 FIX-Remote-Pro 画面説明

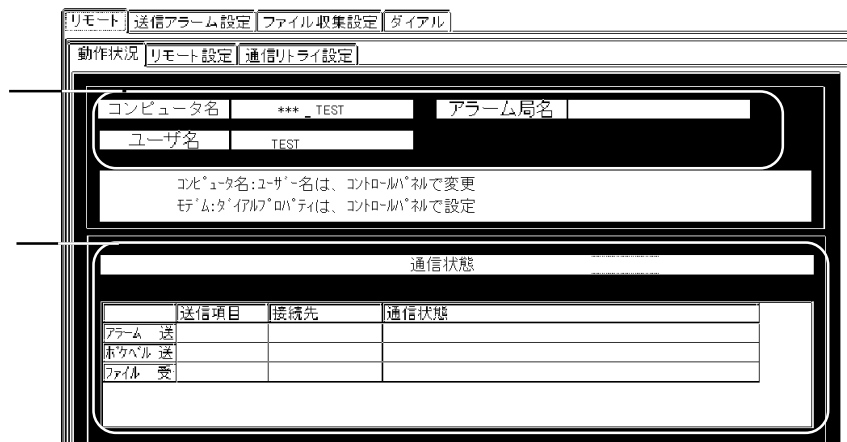
3.1 [リモート監視]

3.1.1 [リモート] 画面

初期画面は以下の画面です。項目について説明します。

[リモート] 画面内には [動作状況] 画面 / [リモート設定] 画面 / [通信リトライ] 画面があります。それぞれのタブをクリックし選択します。タブとは **参照** 1-8 画面選択

[動作状況] 画面

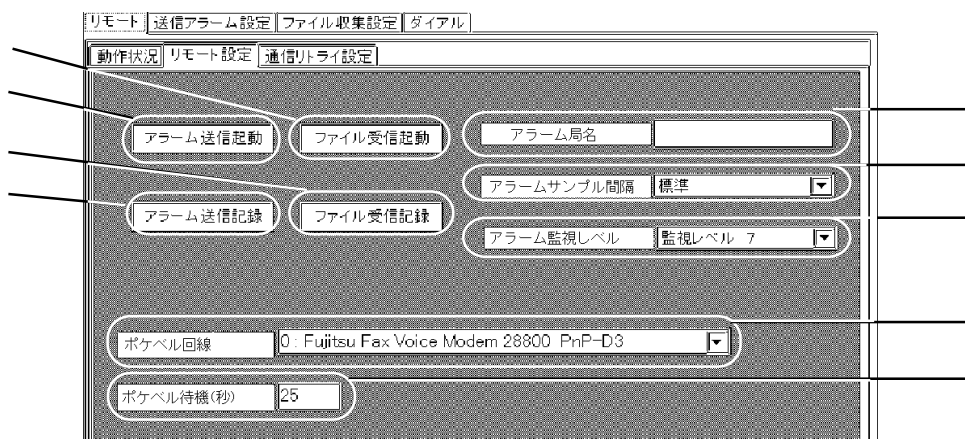


Windows® 95 上のコントロールパネル*1 において設定 / 変更したコンピュータ名 / ユーザ名を表示します。

アラーム局名は [リモート設定] 画面のアラーム局名において登録した内容を表示します。

現在の通信処理状態を表示します。

[リモート設定] 画面



*1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に、[コントロールパネル] をクリックします。

クリックするとファイルを受信できる状態になります。

クリックするとアラームを送信できる状態になります。

クリックすると受信したファイルの履歴をファイルに保存する状態になります。

クリックすると送信したアラームの履歴をファイルに保存する状態になります。

アラーム通知時にメッセージに付加するアラーム局名をここで指定します。

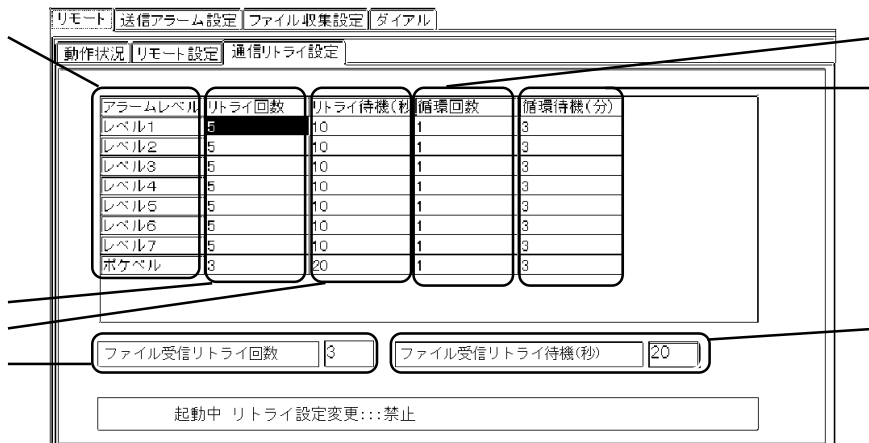
アラームタグの監視周期を設定します。標準にすると1秒周期で監視します。

アラーム通知の優先順位を示します。

ポケットベルダイヤル用のモデムを選択します。

ポケットベルにダイヤルし、メッセージが送信されるまでの待機時間を指定します。

[通信リトライ設定] 画面



アラームレベルを表示します。アラームレベルとは、アラーム通知の優先順位を示します。アラームレベルは [送信アラーム設定] 画面の [アラーム設定] 画面において個々に設定します。

リトライ回数を設定します。リトライ回数とは、アラーム通知時のリトライ回数を示します。

リトライ待機(秒)を設定します。リトライ待機(秒)とは、リトライ発生時の待機時間を示します。

循環回数を設定します。循環回数とは、アラーム通知リトライの循環回数を示します。

循環待機(分)を設定します。循環待機(分)とは、アラーム通知リトライの待機時間を示します。

ファイル受信リトライ回数を設定できます。ファイル受信リトライ回数とは、ファイル受信をリトライする回数を示します。

ファイル受信リトライ待機(秒)を設定します。ファイル受信リトライ待機(秒)とは、ファイル受信リトライの待機時間を示します。

3.1.2 [送信アラーム設定] 画面

[送信アラーム設定]画面内には[アラーム設定]画面/[アラーム現在値]画面/[アラーム送信履歴]画面/[ポケベル送信履歴]画面があります。それぞれのタブをクリックし選択します。

[アラーム設定] 画面



追加 をクリックすると[アラーム監視設定]画面を表示しますので新たにアラーム監視を追加することができます。**参照** [アラーム監視設定]画面

画面内のレベル項目において編集したいレベルを選択し、**編集** をクリックすると[アラーム監視設定]画面を表示しますので設定内容を編集することができます。

参照 [アラーム監視設定]画面

画面内のレベル項目において削除したいレベルを選択し、**削除** をクリックすると選択したアラームを削除します。

画面(アラーム一覧)の項目を選択した場合に内容をスクロールさせるために使用します。

画面内のレベル項目で選択したアラーム監視を強制的にメッセージ通知するために使用します。**参照** [アラーム手動送信]画面

画面内のレベル項目で選択したアラーム監視を強制的にポケットベルにダイアルするために使用します。**参照** [ポケベル手動送信]画面

アラーム監視設定]画面で設定した内容を一覧表示します。

[アラーム監視設定] 画面



監視するノード名(FIXのノード名)を設定できます。

アラームを監視するタグ名(FIXのタグ名)を設定できます。

アラームレベルを指定できます。

アラームの条件であるフィールド / 状態を設定できます。

参照 フィールド / 状態についてはFIXのマニュアル

アラームが発生した場合の通知メッセージを登録します。漢字 / 英数字でも可能です。

ダイヤルで登録した接続名を設定します。

Windows[®] 95 上のコントロールパネル*¹の[ネットワーク]アイコンをクリックし、パソコンで設定しているコンピュータ名(Microsoft[®]ネットワーク名)を設定します。メッセージ通知先のコンピュータ名を設定してください。

送信したいファイルを設定します。

送信先のディレクトリを指定します。指定は絶対パスでおこなってください。

アラームを通知したいポケットベルの番号を設定します。

メッセージを設定します。メッセージは送信する内容を数字で設定します。

[アラーム手動送信] 画面

The screenshot shows a dialog box titled "アラーム手動送信" (Alarm Manual Send). It contains several input fields and buttons. The fields include "接続名" (Connection Name), "接続コンピュータ名" (Connection Computer Name), "局名" (Station Name), "時間" (Time) with a value of "07/09 16:10", "フィールド名" (Field Name) with a value of "A.CUALM", "アラーム記述" (Alarm Description), "送信ファイル名" (Send File Name), and "送信先" (Send To). On the right side, there are two buttons: "送信開始" (Start Send) and "キャンセル" (Cancel). At the bottom, there is a section for "通信状態" (Communication Status) with a "送信ファイル名" (Send File Name) field and a progress bar.

[アラーム監視設定] 画面で設定した内容が表示されます。

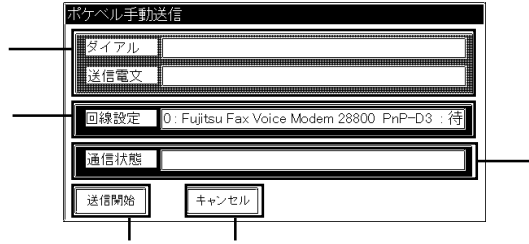
この画面では表示のみです。設定はできません。

送信開始 をクリックすると、アラームメッセージを強制的に送信することを始めます。

キャンセル をクリックすると、キャンセルすることができ画面は閉じます。

送信を開始するとこの部分に通信状態が表示されます。

[ポケベル手動送信] 画面



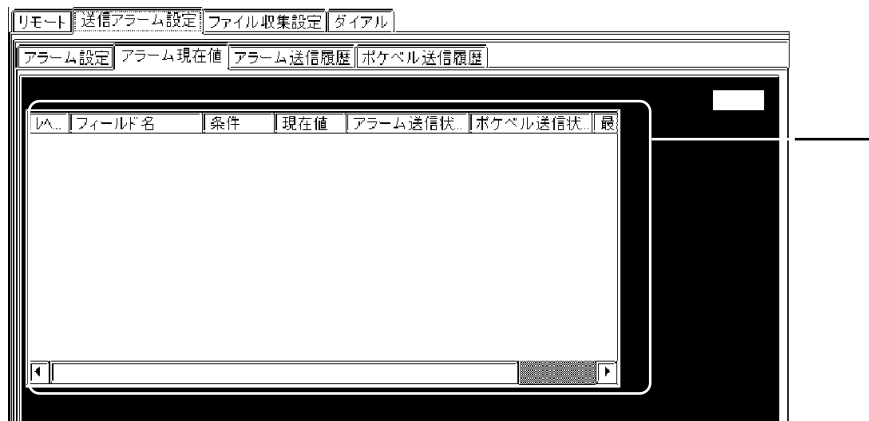
[アラーム監視設定] 画面で設定した内容が表示されます。
この画面では表示のみです。設定はできません。

[リモート設定] 画面で設定した内容が表示されます。
送信を開始するとこの部分に通信状態が表示されます。

送信開始 をクリックすると、ポケットベルへのダイヤル・メッセージを強制的に送信することを始めます。

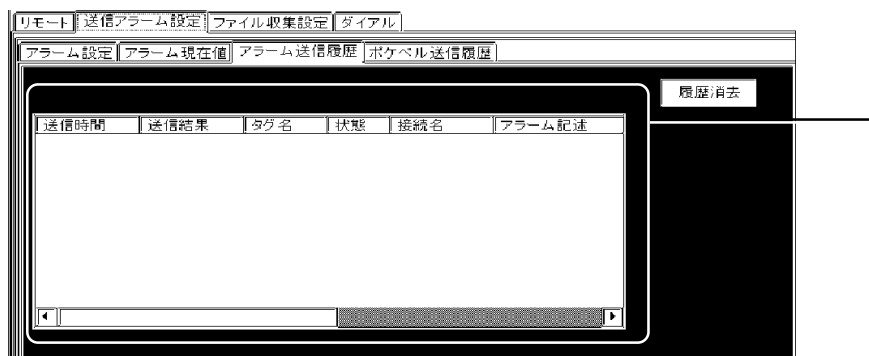
キャンセル をクリックすると、キャンセルすることができ画面は閉じます。

[アラーム現在値] 画面



監視アラームの現在の状態を表示します。

[アラーム送信履歴] 画面



アラーム通知の履歴を一覧表示します。

*1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に、[コントロールパネル] をクリックします。

[ポケベル送信履歴] 画面



ポケットベルに通知した履歴を一覧表示します。

3.1.3 [ファイル収集設定]画面

[ファイル収集設定]画面内には[ファイル収集設定]画面/[ファイル受信履歴]画面があります。それぞれのタブをクリックし選択します。

[ファイル収集設定]画面



追加をクリックすると[ファイル受信設定]画面を表示します。[ファイル受信設定]画面において新たにファイル転送の設定を追加します。

編集をクリックすると[ファイル受信設定]画面を表示します。[ファイル受信設定]画面において現在登録しているファイル転送の設定を編集します。

内の時間を選択した後、**削除**をクリックすると現在登録しているファイル転送の設定を削除します。

内の時間を選択した後、**手動受信**をクリックすると[ファイル手動受信]画面を表示します。ファイル手動受信とは、ファイル転送を指定した時刻以外に受信したい場合に使用します。

[ファイル受信設定]画面で設定した内容を一覧表示します。

[ファイル監視設定]画面



ファイルの転送開始時間を指定します。

ダイアルで登録した接続名を設定します。

ディレクトリの共有指定時に設定した共有名を設定します。

転送するファイルを設定します。

転送した後に保存するローカル側ディレクトリを設定します。

接続時間を設定できます。設定しない場合(0の場合)はファイル転送が完了した後接続を切断します。

[ファイル手動受信] 画面



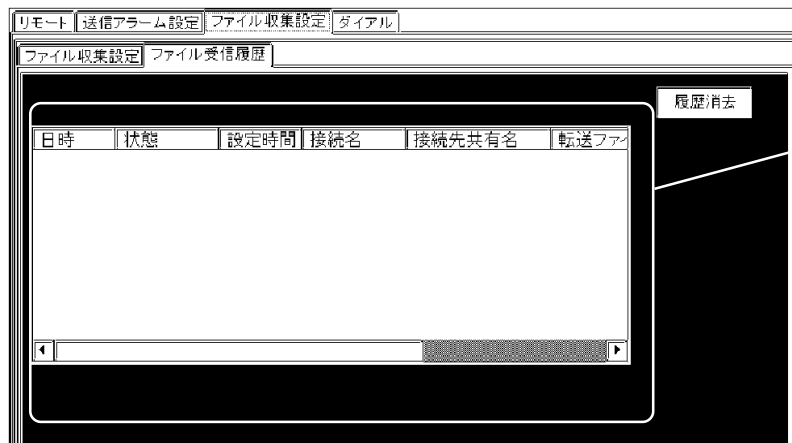
[ファイル受信設定] 画面において設定内容を表示します。

ファイルを受信している通信状態が表示されます。

送信開始 をクリックすると受信することを始めます。

キャンセル をクリックすると、キャンセルすることができ画面は閉じます。

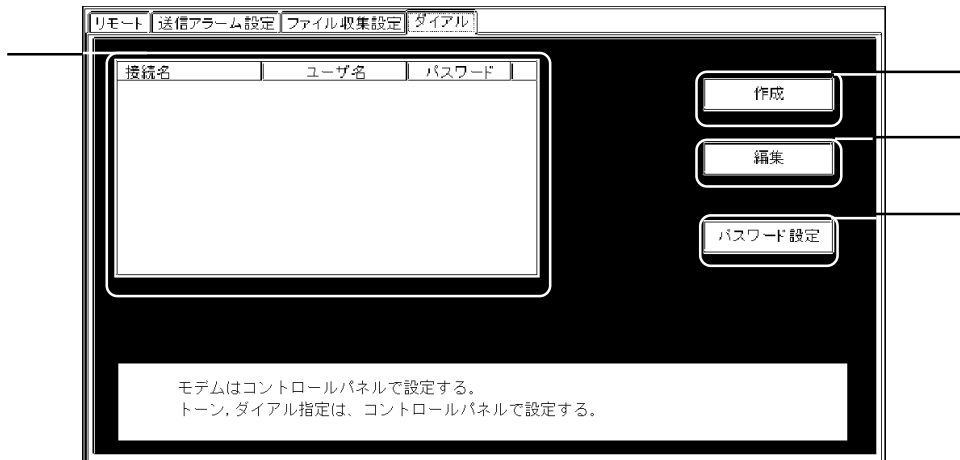
[ファイル受信履歴] 画面



受信したファイルの履歴を一覧表示します。

3.1.4 [ダイアル] 画面

[ダイアル] 画面



で設定した接続を表示します。

作成 をクリックすると [新しい接続] 画面を表示します。

編集 をクリックすると既に設定されている接続名内容を変更できます。

パスワード設定 をクリックすると既に登録している接続先をパスワード設定することができます。

全てはダイアルアップネットワークを呼び出して処理しています。



本マニュアルはWindows®95での画面を例に説明します。Windows NT™ の場合は画面内容は違います。

[新しい接続] 画面

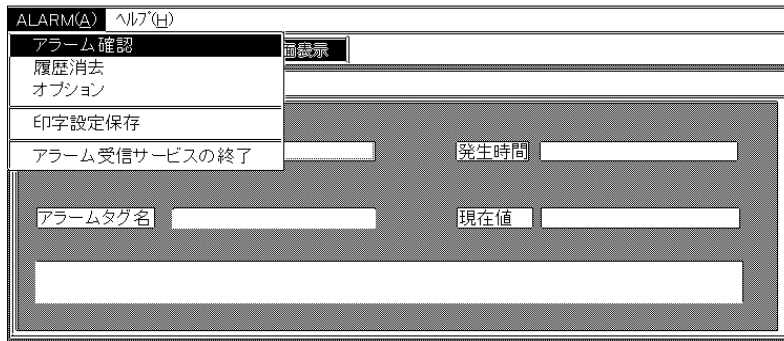


以下は、画面の指示にしたがって作業を進めてください。

3.2 [アラーム受信サービス]

3.2.1 [アラーム受信サービスのメニューバー]

ALARM(A)



アラームの確認

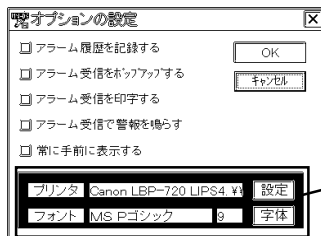
アラームの確認ボタンを押すとオプションにおいて警報音を鳴らす設定をおこなっている場合はならないようにします。また、" アラーム発生 " の表示を消します。

履歴消去

履歴画面にある履歴データを削除することができます。

オプション

以下の画面が表示されますので設定したいチェックボックスに印(☑)をつけてください。



- ・ アラーム履歴を記録する
アラーム受信履歴をファイルに保存します。
- ・ アラーム受信をポップアップする
アラームを受信した場合に画面をポップアップします。
- ・ アラーム受信を印字する
アラーム受信メッセージを通常プリンタに自動出力します。
- ・ アラーム受信で警報を鳴らす
アラームを受信した場合に警報音を鳴らします。
- ・ 常に手前に表示する
アラーム受信画面を常に手前に表示するようになります。

アラームを印字するプリンタと字体、フォントサイズを指定します。

印字設定保持

アラーム印字で使用するプリンタの設定を保存することが出来ます。

アラーム受信サービスを終了

アラーム受信サービスを終了します。



ダイヤル受信側で使用する場合はWindows®95 PLUS が必要です。

ヘルプ(H)



トピックの検索(H)

本ソフトの説明(Help)が記載されています。

必ず読んで下さい

本ソフトの説明(Help)が記載されています。

バージョン情報(A)

Almpopup.exe のバージョンを表示します。

[アラーム] 画面

最新アラームの情報を表示します。

[履歴] 画面

受信したアラームの中で最新 100 件分が履歴として残され表示します。



- ・ FIX-Remoto-PRO を終了すると履歴は削除されます。
受信したアラームを保存したい場合はメニュー「ALARM(A)」の中のオプション画面から”アラーム受信記録”のチェックボックスに印()をつけてください。
 - ・ アラーム通知機能でFIXの保留アラームをアラーム監視条件にする場合は、別途アラーム監視応答を行う処理が必要です。FIXの保留アラームは確認応答がおこなわれないと状態が変化しない為、新たなアラーム発生(例：HI HIHI、HI 正常 HI など)を検出できません。必ず、FIXでアラーム監視応答を行う処理を行ってください。
- 例) 1. ローカル側FIXで確認処理をおこなう。
2. リモート側から手動接続し、FIXでアラーム確認処理をおこなう。
3. ローカル側が無人の時はコマンド言語やアナログアラームブロック等によりローカル側で一定時間後に確認処理をおこなう。

参照 3.3.3 設定例

3.3 ダイアル通信について

ダイアル通信とは、FIXのノード間をネットワーク接続するものです。
FIXでアラームネットワークサービス(自動アラーム確認)を使用する場合にこのRDIAL.EXEを使用します。

3.3.1 起動について

DOS上において起動します。

パラメータについて

| | |
|-------------|-------------------------|
| /D=**** | 接続名****に接続します。 |
| /H=**** | 接続名****を切断します。 |
| /C | アイコン状態で起動します。 |
| /T=9999 | 指定した秒数のみ接続します。 |
| /S=NODE・TAG | NODE, TAGを状態変数として使用します。 |
| /P=**** | パスワードを****に設定します。 |
| /U=**** | ユーザ名を****に設定します。 |



1. コマンドの文字は半角大文字で入力してください。
2. コマンドとコマンドの間はスペースで区切ります。

例 /D=TEST /S=NODE:TAG /C

/D=と/H=を指定した場合は、/Hの切断を実行し/Dを無効とします。

/D=と/H=を指定しない場合は、動作は無効とします。

/Sについては **参照** 2.3.2 /Sで設定する状態変数について

/Pを省略した場合は、システムで保存していたパスワードが使用されます。
相手局でパスワードの設定がされている場合はパスワード入力の為のプロンプトが表示されますのでパスワードを入力してください。

パスワードを設定していない場合はパスワード無しで接続します。

/Uを省略した場合は、最後に指定したユーザ名が使用します。



/Tを省略した場合は、回線は180秒で切断します。

/Tに「0」を設定した場合は、回線は無期限に接続します。

3.3.2 /Sで設定する状態変数について

/Sで設定する状態変数の内容一覧

| | |
|-------|------------|
| 0 | ダイアル開始 |
| 1 | ダイアル中 |
| 2 | パスワード照合 |
| 3 | パスワード照合完了 |
| 4 | ネットワークログオン |
| 5 | 接続中 |
| 6 | 切断 |
| 7~99 | 未使用 |
| 100以降 | 異常番号 |



異常発生時には異常番号を保存します。

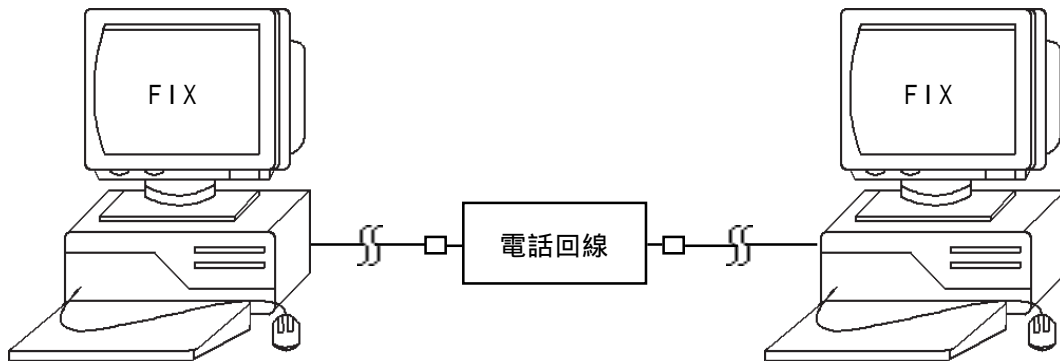
異常番号は、Windows®95の異常番号に100を加えた数字です。

リモートアクセスの異常番号の詳細は、次のページを参照してください。

| 異常番号 | 内容 |
|------|---|
| 600 | 操作は保留されています。 |
| 601 | ポートハンドルが無効です。 |
| 602 | ポートはすでに開かれています。 |
| 603 | 発信元のバッファが小さすぎます。 |
| 604 | 間違った情報が指定されています。 |
| 605 | ポート情報を設定できていません。 |
| 606 | ポートが接続されていません。 |
| 607 | イベントが無効です。 |
| 608 | デバイスは存在しません。 |
| 609 | デバイスタイプが存在しません。 |
| 610 | バッファが無効です。 |
| 611 | ルートが使えません。 |
| 612 | ルートがアロケートされていません。 |
| 613 | 無効な圧縮が指定されました。 |
| 614 | バッファが足りません。 |
| 615 | ポートが見つかりませんでした。 |
| 616 | 非周期の要求は保留されています。 |
| 617 | ポート/デバイスはすでに切断されています。 |
| 618 | ポートが開かれています。 |
| 619 | ポートは切断されています。 |
| 620 | エンドポイントがありません。 |
| 621 | 電話帳ファイルを開けません。 |
| 622 | 電話帳ファイルを読み込めません。 |
| 623 | 電話帳のエントリが見つかりません。 |
| 624 | 電話帳ファイルに書き込めません。 |
| 625 | 電話帳ファイルに無効な情報があります。 |
| 626 | 文字列を読み込めません。 |
| 627 | キーが見つかりません。 |
| 628 | ポートは切断されました。 |
| 629 | ポートがリモートコンピュータによって切断されました。 |
| 630 | ポートはハードウェアエラーのため切断されました。 |
| 631 | ポートはユーザによって切断されました。 |
| 632 | ストラクチャサイズが正しくありません。 |
| 633 | ポートはすでに使用中か、またはダイアルアップネットワーク用に設定されていません。 |
| 634 | コンピュータをリモートネットワークに登録できません。 |
| 635 | 原因不明のエラーです。 |
| 636 | ポートに接続されているデバイスが正しくありません。 |
| 637 | 文字列を変換できませんでした。 |
| 638 | 要求は時間切れになりました。 |
| 639 | 非周期ネットは使えません。 |
| 640 | NetBIOSエラーが起きました。 |
| 641 | クライアントサポートに必要なNetBIOSリソースをアロケートできません。 |
| 642 | NetBIOS名のうちの1つはリモートネットワークに登録済みです。 |
| 643 | サーバーのネットワークアダプタにエラーが起きました。 |
| 644 | ネットワークメッセージを受信しません。 |
| 645 | 確証エラーです。 |
| 646 | このアカウントでは、この時間帯にログオンできません。 |
| 647 | アカウントが使用不可の状態です。 |
| 648 | パスワードの期限が切れています。 |
| 649 | このアカウントでは、ダイアルアップネットワークの許可がありません。 |
| 650 | ダイアルアップネットワークサーバーが応答しません。 |
| 651 | モデム(またはほかの通信デバイス)でエラーが起きました。 |
| 652 | デバイスから確認できない応答がありません。 |
| 653 | デバイス.INFファイルセクションに必要なマクロがありません。 |
| 654 | デバイス.INFファイルセクションの中のコマンドまたは応答が定義されていないマクロを参照しました。 |

3.3.3 設定例

ここでは、FIXのSCADA.VIEW1間でアラーム通知 / 確認応答を自動で行うスクリプトについて例を記述します。



ノード名 : SCADA1

ダイヤルアップネットワーク接続先名 : VIEW_1

FIX ノード間接続 : TCP/IP

ネットワーク設定でTCP/IPをダイヤルアップアダプタでバインドされている状態です。

SCADA1側で以下のスクリプトがループする環境を作成します。

SCADA1で以下のタグを用意します。

| | | | |
|---------|---------------|-----------|--------------------|
| DI ブロック | タグ名 : LALM | 装置名 : SIM | I/O アドレス : C:SAA:1 |
| AO ブロック | タグ名 : AO_TEST | 装置名 : SIM | I/O アドレス : 0 |

&TOP

```
IF SCADA1:LALM.F_CV > 0 <コメント : 未確認アラーム有り? >
RUNTASK C:¥Rmtpro¥RDIAL.EXE "/D=VIEW_1 /S=SCADA1:AO_TSET /T=0"
ELSE
PAUSE 2
GOTO TOP
ENDIF
&WAIT
IF SCADA1:LALM.F_CV == 0 <コメント : 未確認アラーム無し? >
PAUSE 30
RUNTASK C:¥Rmtpro¥RDIAL.EXE "/H=VIEW_1"
ELSE
PAUSE 2
GOTO WAIT
ENDIF
GOTO TOP
```

VIEW_1 側にアラームリンク概要リンクのある PICTURE1 を作成します。
その画面の開くコマンドスクリプトに以下のスクリプトを記述します。

```

DECLARE #NUM NUMERIC GLOBAL
&TOP
GETVAL SCADA1:LALM.F_CV #NUM
IF #CMDSTATS !=0
GOTO WAIT
ENDIF
IF #NUM > 0
PAUSE 30
ALARMACK ALL PICTURE1          <コメント：SCADA1 のアラームを自動確認>
ELSE
&WAIT
PAUSE 2
ENDIF
GOTO TOP

```

これらのスクリプトを記述しておけば SCADA1 でアラームが発生した場合に VIEW_1 をダイアル接続しアラームの通知をおこなった後、接続を切断することができます。



- ・ 例では接続時の異常を監視していません。
 - ・ 監視する場合、例では SCADA1 の AO_TSET に接続状態が出力されるのでスクリプト中に判断処理を追加するようにしてください。
- またアラームの内容を通知するためには FIX のシステム構成のアラーム構成設定で " アラーム起動時キュー - サービス " を使用可能にし「変更」ボタン " 時間によるフォルダ " を設定してください。またアラームサマリー以外にアラーム通知をおこないたい(アラームヒストリ通知等)場合は同じ画面の " サマリー・アラームのみ " のチェックボックスをはずしてください。

第4章 異常処理

4.1 異常処理

| 項目 | チェック |
|--|------|
| ダイヤルアップネットワークはインストールされていますか？ | |
| モデムの登録は行っていますか？ | |
| メモリ容量は16Mバイト以上(NTの場合32バイト以上)ありますか？ | |
| 十分なディスク容量はありますか？ | |
| Microsoftネットワークの登録は行っていますか？ | |
| Windows [®] 95の場合、Plus!をインストールしていますか？ | |
| ¥RmtBox¥RmtAlarmはフルアクセスで共有されていますか？ | |

4.2 トラブルシューティング

| 不具合事項 | 確認 / 処理事項 |
|----------------------|---|
| Remote Proが立ち上がらない | ダイヤルアップネットワークはインストールされていますか？インストールされていなければインストールを行ってください。 |
| | モデムはインストールされていますか？インストールされていなければインストールを行ってください。 |
| | メモリは十分にありますか？メモリは16Mバイト以上（NTの場合、32Mバイト以上）必要です。 |
| | 他のアプリケーションが影響している場合があります。他のアプリケーションを終了してからRemote Proを起動してください。 |
| | ¥RmtBox¥RmtAlarmディレクトリはフルアクセスで共有されていますか？共有されていなければ、¥RmtBox¥RmtAlarmディレクトリの[プロパティ]で[共有]を選択し、[共有しない]を[共有する]にしてアクセス権を[フルアクセス](Windows95の場合)または[フルコントロール](WindowsNTの場合)にしてください。 |
| Remote Proがアラーム通知しない | Rmtpro.exeが起動しているパソコンで、FIXが起動していますか？起動していなければ起動してください。 |
| | アラーム監視に登録しているタグ名は正しいですか？FIXのデータベースビルダを起動し、登録したタグ名が存在しているか確認してください。 |
| | アラーム監視条件は正しいですか？アラーム監視設定で設定する条件がアラーム発生条件と一致しているか確認してください。 |
| | ダイヤル接続先は正しいですか？接続名に設定した接続先と正常に通信が行えるか、まずダイヤルアップネットワークで接続してみてください。通信できない場合は、ダイヤル、コンピュータ名、ユーザー名、パスワードを調査し、接続できるようにしてください。 |
| | [アラーム送信起動]を行っていますか？自動起動の場合は、/aのパラメータを付けてRmtpro.exeを起動してください。手動起動の場合は、[アラーム送信起動]ボタンを押してください。 |

| 不具合事項 | 確認 / 処理事項 |
|---------------------------------|--|
| Remote Proが ファイル転送 しない | ファイル名は正しいですか？ 指定したファイル名が存在しているか確認してください。 |
| | ダイヤル接続先は正常ですか？ (アラーム通知の確認 / 処理事項参照) |
| | ファイルが存在するディレクトリは共有されていますか？ 共有されていない場合は、¥RmtBox¥RmtAlarmディレクトリの[プロパティ]で[共有]を選択し、[共有しない]を[共有する]にしてアクセス権を[フルアクセス](Windows95の場合)または[フルコントロール](WindowsNTの場合)にしてください。 |
| | 保存ディレクトリに指定したディレクトリがローカル局のパソコンに存在していますか？ [ファイル受信起動]を行っていますか？ 自動起動の場合は、/rのパラメータを付けてRmtpro.exeを起動してください。手動起動の場合は、[ファイル受信起動]ボタンを押してください。 |
| Remote Proが ポケベルにダイ アルしない | Rmtpro.exeの[リモート]シートの[リモート設定]で[ポケベル回線]に、存在するモデムが登録されていますか？ |
| | ポケベルのダイヤル番号は正しいですか？ ポケベルのダイヤルを確認し、正しい番号を登録してください。 |
| | ポケベルメッセージの記述はポケベルの仕様にあっていますか？ ポケベルの仕様にあわせたメッセージを記述してください。 例：最後に「#」を2回入力など |
| | ポケベルの待機時間は十分ですか？ ダイヤルしてからメッセージ送信までの時間は十分にあるか確認してください。時間が短いようであれば、Rmtpro.exeの[リモート]シートの[リモート設定]で[ポケベル待機]の時間を調整してください。 |

4.3 FIX-Remote-Pro 注意事項について

アラーム通知機能で保留アラームをアラーム監視条件にする場合は、別途アラーム監視応答を行う処理が必要です。保留アラームは確認応答がおこなわれないと状態が変化しない為、次のアラーム発生を通知しません。必ず、アラーム監視応答を行う処理を行ってください。RDIAL.EXEを使用する場合は両局にFIXが必要となります。

4.4 アフターサービス

技術ご相談窓口（サポートダイヤル）

FIX-Remote PROご使用時の技術的なご相談を承ります。

- 1 お問い合わせの前に
まずマニュアルの該当するページをご覧ください。
- 2 お問い合わせの際には次の点についてお知らせください。
 - ・会社名
 - ・氏名
 - ・ご住所
 - ・ご連絡先の電話番号
 - ・ご使用機種

問題点・現象・操作を行った手順などを、あらかじめ書き留めてからご連絡くださるようお願いいたします。

- 3 お問い合わせ先

| | | |
|-----|----------|--|
| 東京 | サポートダイヤル | TEL (03) 5821-1105 FAX (03) 5821-1110 |
| 名古屋 | サポートダイヤル | TEL (052) 932-4093 FAX (052) 932-6802 |
| 大阪 | サポートダイヤル | TEL (06) 613-3115 FAX (06) 613-5888 |

土曜日・日曜日・祝日のサポートダイヤル（12月31日～1月3日を除く）は、
（06）613-3115にて承っております。

受付時間 TEL...9:00AM～ 5:00PM

MEMO